

JISA 知的財産権セミナー「知的資産を活かした企業経営」開催

平成22年12月10日、全国情報サービス産業厚生年金基金会館において、経営者層を対象とした JISA 知的財産権セミナー「知的資産を活かした企業経営」が開催された。出席者は51名。

冒頭挨拶の中で、春日正好副会長・企画委員長は、業界の業況や業界ビジネスのトレンドについて述べた後、JISA が示している業界の5つの将来展望を踏まえ、「今後も企業競争力を強化していく上では、各社が得意な分野に一層注力すること、またその一方で、サービス提供型ビジネスへのシフトや顧客とのパートナーシップの醸成、顧客事業の海外展開等を好機とした国際企業化への模索が重要」と強調した。また、事業の生産性向上の観点からも、知的財産を重視した事業等を着実に実施していくことの重要性を説いた。その後、3名の講師による講演が行われた。

1. 「知識資産を活かす日本ユニシスの取組」

吉野良成氏(日本ユニ시스株式会社 総合技術研究所 技術評価・知財化センター長)が、約10年前から知識資産を重視した経営戦略を打ち出し、組織の中の知恵や経験を集約して再利用する仕組みづくりに全社的に注力している日本ユニシスの取組について、経営の関与と技術評価・知財化センターの活動を中心に講演した。

2. 「新ビジネスを生み出し続けるスリーエムの企業経営」

赤澤太郎氏(住友スリーエム株式会社 知的財産部部長)が、イノベーションとその源泉の重要性について提唱した。20世紀初めに設立された鉱石採掘会社が、幾度かの苦難を乗り越えながらイノベーションにより様々な新製品を生み出し、事業の多角化とグローバル展開を遂げてきた。これを支える3M の人材やカルチャー、知財のサポートについて、同社のヒット商品誕生秘話をもとに講演した。

3. 「情報サービス業の知的資産マネジメント」

永田義人氏(平成 22 年度 JISA 企画委員会法務部会知的財産 WG グループ長、株式会社野村総合研究所 法務・知的財産部 知的財産室長)が、JISA が取りまとめた業界の将来展望等を踏まえ、知識集約型ビジネスの拡大を目指した知的資産マネジメントについてビジネス形態ごとに概説し、知的資産の活用検討例等を紹介した。

質疑応答では、日本ユニシスの技術評価・知財化センターの規模やナレッジ DB のデータを拡充させる仕掛け、3M の15%ルールに関する定量的な分析等に話題が及んだ。

【関連URL】 [○JISAブックレットのご案内](#)

(茂木)